

# 双方向の交流に期待

桜美林大学ビジネスマネジメント学群教授

鈴木勝氏

「飛躍のインバウンド」と形容される最近の日本の  
国際観光の中にあって、待望の「観光庁」  
が本年10月1日に誕生した。中央官庁組織  
のスリム化の中での誕生であり、それだけ  
期待が寄せられているわけである。「観  
光立国日本」を総合的に政策的に推進する  
組織として大いに期待したい。歓迎の気持  
ちの中で、特に、次の3

点を新たに発足した「觀  
光廳」に望みたい。  
①現



在、多くの省庁が觀光分  
野に関与しているが、從

来の縦割り行政を廃しそのなかでの強力なり  
ーダーシップを期待したい、②継続的な觀  
光活性化には、政府と地域との強力な連携  
が重要であるが、地域の独自性ある提案を  
積極的に汲み取る環境作りを願いたい、③  
訪日外国人旅行、いわゆる、『インバウン  
ド』に偏らず国際観光の双方向交流、いわ  
ゆる、『TWO WAY(ツーウェイ)  
TOURISM(ツーリズム)』の拡大基  
調の実現に留意願いたい。

- 早大卒業、日本交通公社(現JTB)入社。JTB  
ワールド・取締役アジア部長。2000年、退社、大  
阪観光大助教授、02年教授、08年桜美林大教授。

2008/10/29

(角田新南)

[第3種郵便物認可]